

病虫害発生予察指導情報（追加情報）

（ナシ・黒星病 No. 1）

令和7年4月25日

鳥取県病虫害防除所

1. 情報の内容

近年は‘新甘泉’を中心にナシ黒星病の多発園が散見されており、越冬伝染源量が慢性的に多い園が存在する。4月25日現在、満開期頃に急増した子嚢胞子の量がさらに増加しており、果叢基部病斑からの分生子飛散も認められているため、適期防除を確実に行う必要がある。

2. 情報の根拠

- （1）満開期以降の降雨日を中心に、罹病落葉から子嚢胞子が断続的に飛散しており、4月23日にはそれが大きく増加した。また、降雨日には果叢基部病斑からの分生子飛散も認められた（表1）。
- （2）開花期～落花期はナシの感受性が高く、この期間における胞子飛散のピークは本病の防除上重要な時期である。
- （3）これまでの気象経過および向こう1か月の気象予報（4月24日発表）から、本病の発生量が平年に比べてやや多くなる可能性がある。

3. 防除上注意すべき事項

- （1）防除は、各地域の防除暦に従って実施する。
- （2）散布むらが生じることを避けるため、風の弱い早朝に散布を行う。
- （3）落花期～摘果期の防除を必ず行う。薬剤は、スコア顆粒水和剤2,000～4,000倍液とベルコートフロアブル1,500倍の混合液、ファンタジスタ顆粒水和剤4,000倍液、ベンレート水和剤2,000倍液、カナメフロアブル4,000倍液、ユニックス顆粒水和剤47の2,000倍液、有機銅フロアブル（キノンドーフロアブル又はドキリンフロアブル）1,000倍液、ベルコートフロアブル1,500倍液等を散布する。散布にあたっては、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守る。
- （4）散布間隔が長くなる場合はベルコートフロアブル1,500倍液、チウラムフロアブル500倍液、有機銅フロアブル（キノンドーフロアブル又はドキリンフロアブル）1,000倍液などを追加散布する。
- （5）本病の果叢基部病斑は、目視で確認できる。鱗片が脱落せずに残っている果叢については、発病果叢の可能性がある（図1）。果叢をよく確認し、鱗片の根元が黒いものについては、直ちに切除し園外処分する。また、葉や幼果等の発病部位についても同様に処分する。

表1 県発生予察ほ場における日別のナシ黒星病の子嚢胞子、分生子飛散数(令和7年)^{a)}

月/日	子嚢胞子	分生子 ^{b)}
4/10	11	0.6
4/11	17	-
4/12	106	-
4/13		0
4/14	2	0
4/15	1	0.3
4/16	0	-
4/17		-
4/18	57	-
4/19		-
4/20		1.3
4/21	1	-
4/22	5	18.0
4/23	328	0.9
4/24	2	-

^{a)}灰色のセルは調査期間内において孢子飛散数が最も多かった日を示す。

^{b)}-は無降雨のため、調査未実施。



図1 ‘幸水’におけるナシ黒星病の果叢（花叢）基部病斑